

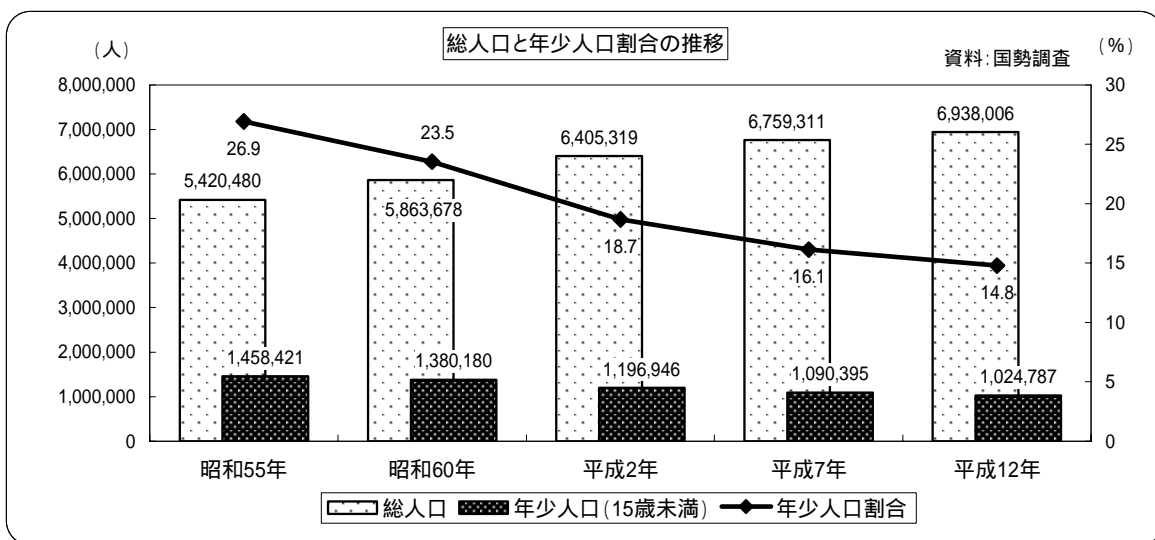
第2章 子育てを取り巻く現状

第1節 少子化の進行

1. 総人口と年少人口割合の推移

埼玉県の総人口と年少人口割合の推移

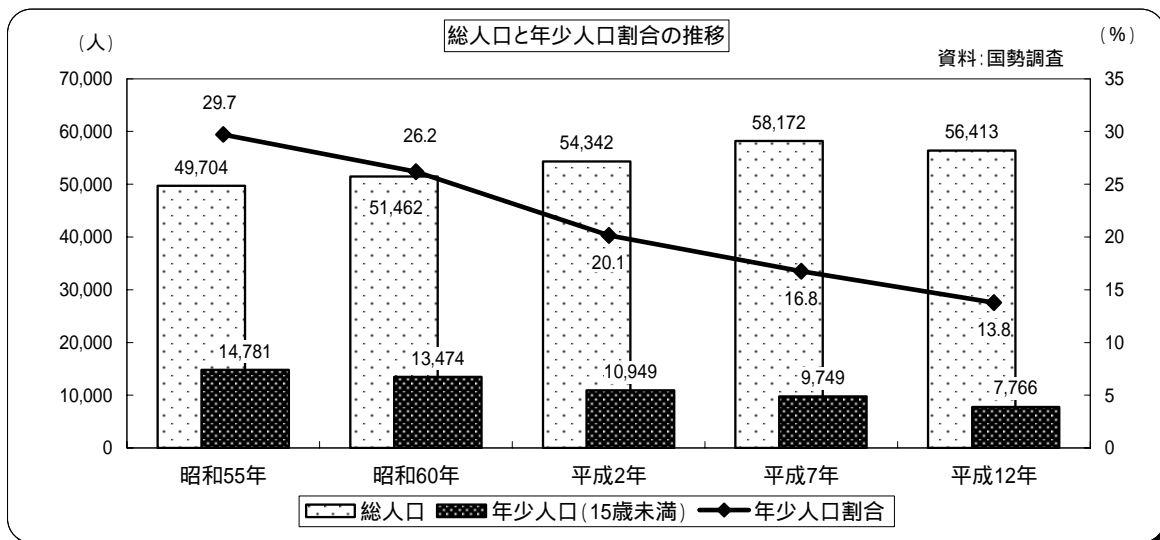
昭和55年から平成12年までの推移をみると、埼玉県の総人口は年々増加しているにもかかわらず、年少人口（15歳未満）は年々減少しています。結果的に年少人口の割合は下降線をたどり、昭和55年の年少人口の割合が26.9%であったのに対し、平成12年は14.8%まで低下しました。



幸手市の総人口と年少人口割合の推移

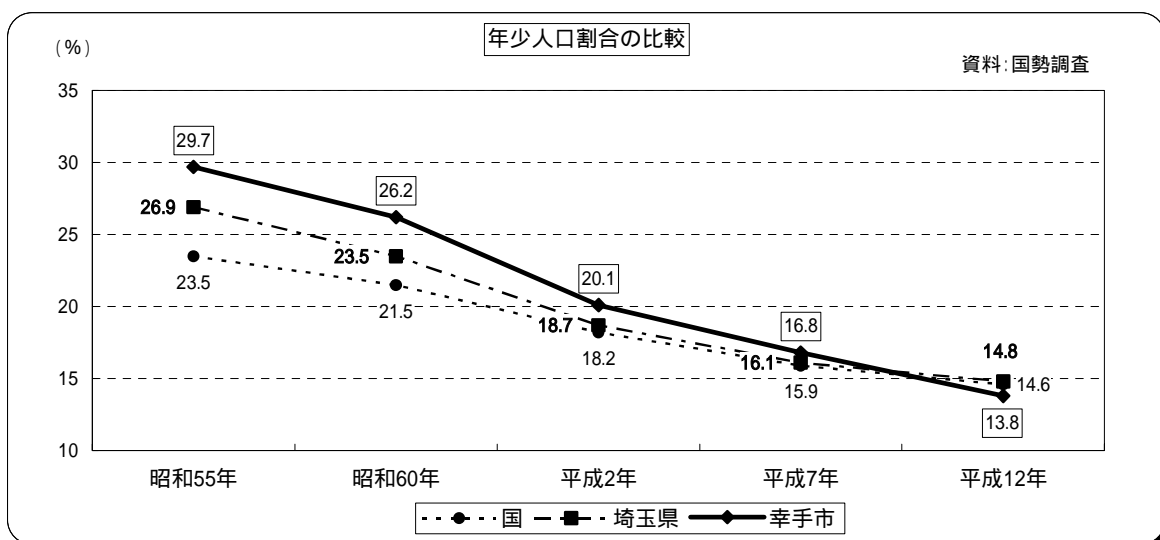
一方、当市では、埼玉県とほぼ同じ傾向を示し、昭和 55 年の年少人口の割合が 29.7%なのに対し、平成 12 年では 13.8%まで低下しました。昭和 55 年では埼玉県よりも高い年少人口の割合(+ 2.8 ポイント)となっていますが、平成 12 年では逆転し、埼玉県よりも低い割合(- 1.0 ポイント)となりました。

このことから、当市は埼玉県内でも少子化の進行が速かったことがわかります。



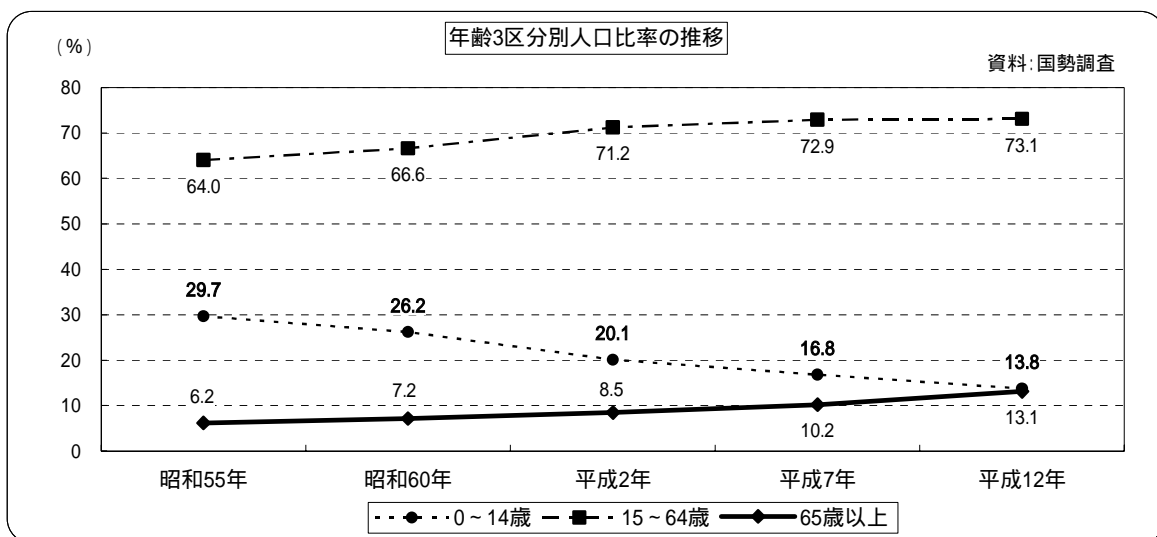
2. 年少人口割合の比較

前述のとおり、当市は全国、埼玉県に比べて少子化のスピードが速かったことがうかがえます。



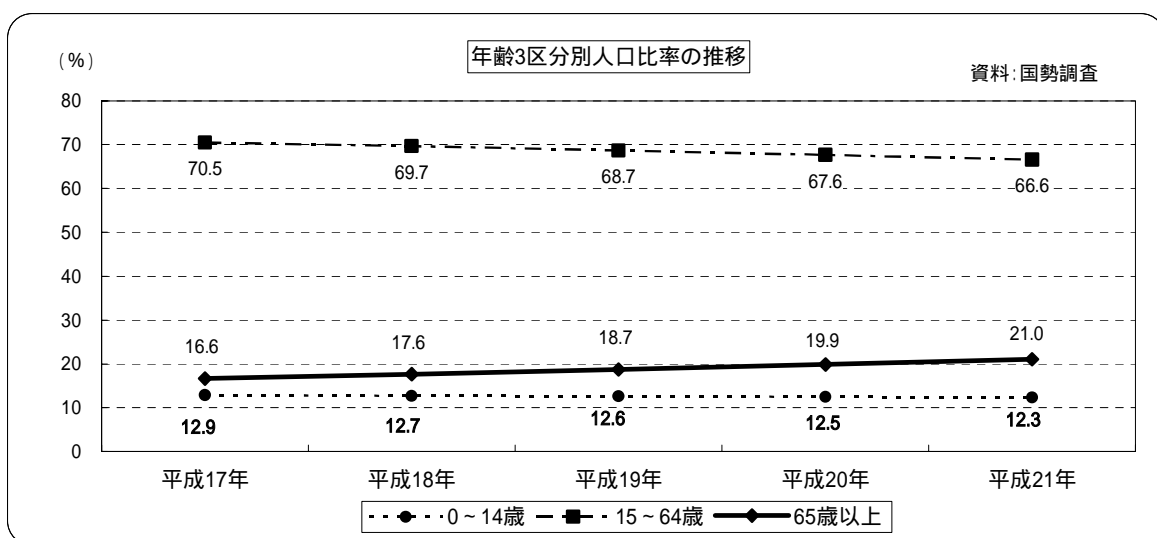
3. 年齢3区分別人口の比較

昭和55年から平成12年までの、当市の年齢3区分(0～14歳、15～64歳、65歳以上)別人口の割合の推移をみると、0～14歳の割合が年々低下し、65歳以上の割合が年々上昇しています。昭和55年における0～14歳の割合は65歳以上よりも23.5ポイント高かったものが、平成12年ではわずか0.7ポイントの差に縮まっています。



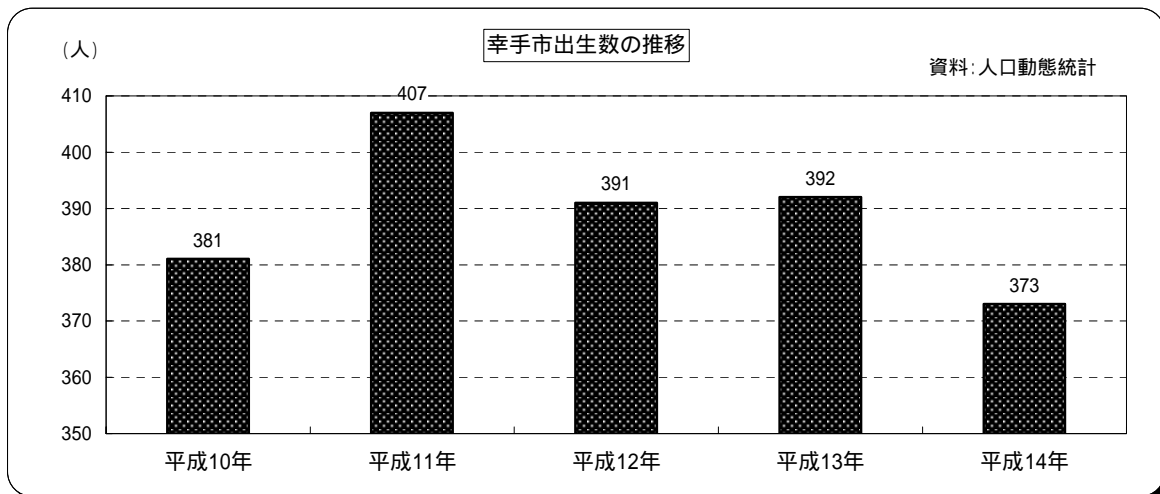
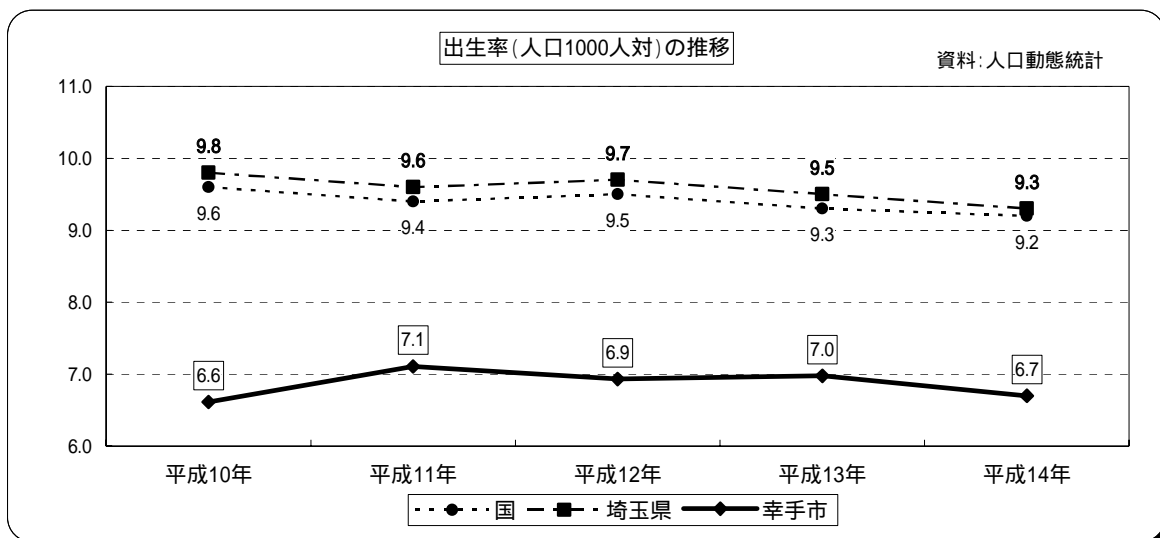
4. 年齢3区分別人口の比較(平成17年～平成21年の推計)

過去の国勢調査を基に、平成17年から平成21年までの年齢3区分別人口の比較を計算してみました。これによりますと、平成17年は65歳以上の割合(16.6%)が0～14歳の割合(12.9%)を3.7ポイント上回っており、平成21年では65歳以上(21.0%)が0～14歳(12.3%)を8.7ポイントも上回る結果となりました。



5. 出生数と出生率の推移

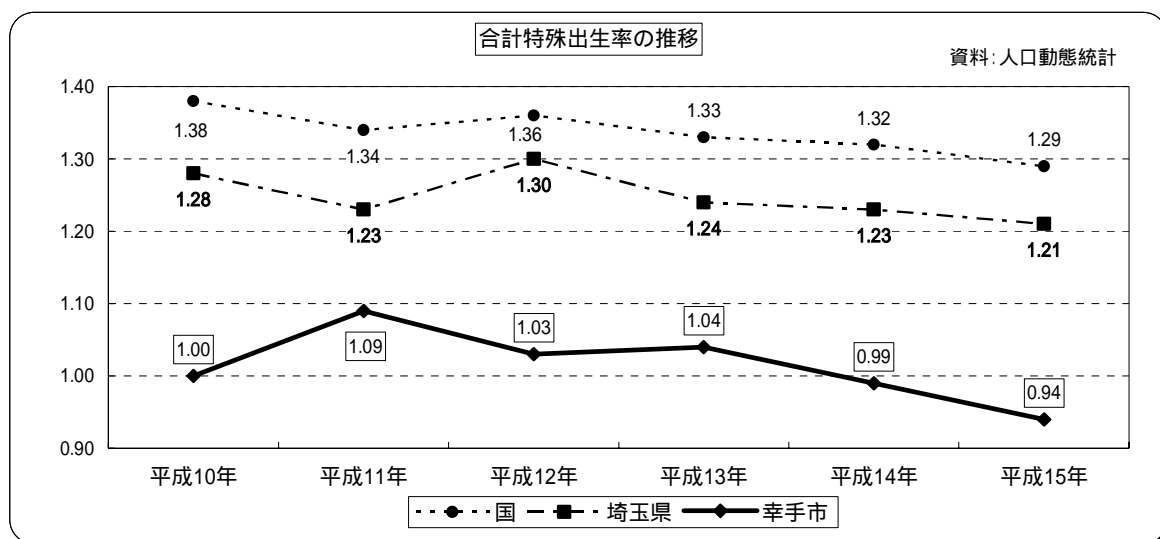
平成10年から平成14年までの出生数と出生率の推移をみると、出生率は国、埼玉県、当市とも横ばいですが、当市は国や埼玉県よりも低いレベルにあることがわかります。平成14年の当市の出生率は(人口1000人に対して)6.7で、国よりも2.5ポイント、埼玉県よりも2.6ポイント低くなっています。



6. 合計特殊出生率の推移

合計特殊出生率とは、15歳から49歳までの女子の年齢別出生率を合計したもので、女性が一生の間に産む子の平均数を表しています。

平成10年から平成15年までの推移をみると、当市の合計特殊出生率は、平成14年には1.0を下回り、平成15年は0.94となっています。この値は、国や埼玉県と比べておのこの0.35ポイント、0.27ポイント低い値で、人口を維持するのに必要とされる2.08の半分以下の水準となっています。



(注) 幸手市の合計特殊出生率は、「人口動態統計」(厚生労働省)の資料に基づき、埼玉県健康福祉政策課で算出したものです。

